

事業承継の種類

ツッコミ質問

税額の軽減対策



親族内承継について説明してください

親族内承継とは、経営者の親族、子どもや、兄弟姉妹・配偶者・兄弟姉妹の配偶者などに対して事業承継する方法です。



親族内承継について説明してください

親族内承継のメリットは、現経営者の子どもが事業承継すると、従業員・取引先の理解を得やすいことや、銀行など資金提供者の支援を得やすいことです。

また、準備期間を長く確保できるため、長期的に後継者教育を行えることや、財産や株式が分散しないため、所有と経営の一体的な承継が可能な点も、親族内承継のメリットです。



親族内承継について説明してください

親族内承継のデメリットは、親族だからといって、経営者としての能力が十分かどうかわからないことです。後継者に経営者としての能力が不足している場合には、後継者育成が困難になります。

また、後継者候補が複数人いる場合に、親族内でトラブルとなる可能性があることも、親族内承継のデメリットです。



親族外承継（社内事業承継）について 説明してください

親族外承継（社内事業承継）とは、役員や従業員に対して事業承継する方法です。



親族外承継(社内事業承継)について 説明してください

親族外承継のメリットは、役員や従業員は、長く経営者とともに働いているため、後継者としての資質が担保され、社風や経営戦略が大きく変わる可能性が低いことです。

また、経営者としての能力がある人材を、社内から選んで後継者に据えられるので、従業員や会社関係者、取引先からの理解を得やすく、事業を好転させられます。



親族外承継(社内事業承継)について 説明してください

親族外承継のデメリットは、後継者の資金力不足など、後継者の負担が大きく、事業承継を拒まれてしまう可能性があることです。

また、社内で権力争いが起こることや、株式譲渡の際に、親族から反対される可能性もあります。



M&Aについて説明してください

M&Aとは、企業や個人などの第三者が企業を買収することです。M&Aを実行すれば、買い手側に経営権を譲渡し、自社の経営を引き継いでもらえます。

M&Aには、合併、株式交換、移転、会社分割、株式譲渡、事業譲渡などの種類があり、中小企業では比較的簡単な、株式譲渡によるM&Aが多く行われています。



M&Aについて説明してください

株式譲渡が行われると、一般的には株主と社長がかわりますが、企業は存続して事業を承継し、資産や負債、許認可の移転手続きも不要です。

また、社名や取引先、顧客なども変わらないため、見た目で見えるような変化はありません。



M&Aについて説明してください

M&Aのメリットは、事業承継先を幅広く探すことができることです。雇用関係や残債務なども、そのまま引き継いでもらうことが可能で、経営者は、株式の譲渡対価として受け取ったまとまった資金を老後の生活資金、あるいは新しい事業の立ち上げ資金として活用できます。また、自社の経営が安定化する可能性もあり、ブランド力や人材の獲得などもメリットになります。



M&Aについて説明してください

M&Aのデメリットは、適切な買い手を探すことや、その後の交渉が難しいことです。

また、従業員や取引先との関係が悪化してしまう可能性があり、経営の一体性を保つのが難しいこともデメリットになります。